

# 地域医療の課題解決の方向性に関する仙台医療圏市町村長会議

## 議事録

日 時：令和3年11月24日（水）

午前10時～午前10時55分

場 所：宮城県行政庁舎4階 特別会議室  
（WEB会議）

### 次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 説 明

- （1）政策医療の課題解決に向けた県立病院等の今後の方向性について
- （2）会議での説明状況について

4 意見交換

5 閉 会

---

### 資料一覧

- 資料1 宮城県の政策医療の課題解決に向けた県立病院等の今後の方向性について
- 資料2 政策医療の課題解決に向けた県立病院等の今後の方向性に関する会議での説明状況について
- 資料3-1 仙台医療圏市町村からの意見（10/13市町村説明会後に提出された意見）
- 資料3-2 宮城県が公表した「政策医療の課題解決に向けた県立病院等の今後の方向性について」に関する本市の考え（概要版）

地域医療の課題解決の方向性に関する仙台医療圏市町村長会議 出席者名簿

	市町村名	職名	氏名	備考
1	仙台市	市長	郡 和子	対面
2	塩竈市	市長	佐藤 光樹	WEB
3	名取市	市長	山田 司郎	WEB
4	多賀城市	市長	深谷 晃祐	WEB
5	岩沼市	市長	菊地 啓夫	WEB
6	富谷市	市長	若生 裕俊	対面
7	亘理町	町長	山田 周伸	WEB
8	山元町	町長	齋藤 俊夫	WEB
9	松島町	町長	櫻井 公一	WEB
10	七ヶ浜町	町長	寺澤 薫	WEB
11	利府町	町長	熊谷 大	WEB
12	大和町	町長	浅野 元	WEB
13	大郷町	町長	田中 学	対面
14	大衡村	村長	萩原 達雄	WEB

		職名	氏名	備考
1	宮城県	知事	村井 嘉浩	
2	宮城県	保健福祉部長	伊藤 哲也	
3	宮城県	保健福祉部副部長	梶村 和秀	
4	宮城県	保健福祉部副部長(技術担当)	高橋 達也	
5	宮城県	保健福祉部医療政策課長	遠藤 圭	

## 1 開 会

○司会（伊藤保健福祉部長）

定刻でございますので、ただいまから「地域医療の課題解決の方向性に関する仙台医療圏市町村長会議」を開催いたします。開会に当たりまして、村井知事から挨拶を申し上げます。

## 2 あいさつ

○村井知事

本日は、大変お忙しいところ御出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

県では、9月9日に記者会見を行いまして「政策医療の課題解決に向けた県立病院等の今後の方向性について」公表いたしました。

その内容は、仙台医療圏を中心とした本県の政策医療の課題と今後の方向性に関するものであります。その課題解決のために、仙台赤十字病院と県立がんセンターを統合し、東北労災病院と県立精神医療センターを合築し、それぞれ新たな拠点病院を整備することについて、二つの枠組みで協議を開始することを関係者の間で合意したことを発表したものであります。

その上で、今回の知事選挙におきましては、県政の重要課題に対する私の考えを県民の皆様にしつかりとお伝えした上で評価をいただくことを念頭に、新たな二つの拠点病院は名取市と富谷市にそれぞれ開院を目指すことを政策集に掲げましたので、その実現のために全力を尽くしてまいりたいと考えております。

今後の議論に当たっては、地域医療の抱える多くの課題の解決に繋がるよう、各設置主体のほか東北大学も含めた関係者による協議を重ねながら、在るべき姿について、引き続き検討を進めてまいりたいと考えております。

県といたしましては、協議の内容、検討の状況など、できる限りの情報提供に努めまして、市町村の御理解をいただきながら、進めてまいりたいと考えておりますので、どうかよろしくお願いたします。

本日は、仙台医療圏の各市町村長の皆様に、県が公表した内容を説明させていただき、皆様から忌憚のない御意見をいただければと思っております。

本会議が有意義な場となりますよう御協力をよろしくお願申し上げます。本日は、限られた時間ではありますが、どうかよろしくお願いたします。

○司会（伊藤保健福祉部長）

次に、本日お集まりいただいております出席者につきましては、「出席者名簿」のとおりでございます。

配付資料の確認をさせていただきます。本日の配付資料は、次第のとおりであります。資料1、資料2、資料3-1、資料3-2がございます。御確認をお願いいたします。

また、この会議は、私、県の保健福祉部長伊藤が進行役を務めさせていただきます。よろしくお願いたします。

それでは、早速ですが、次第に沿って「3 説明」に入らせていただきます。

「(1) 政策医療の課題解決に向けた県立病院等の今後の方向性について」、「(2) 会議での説明状況について」、医療政策課長の遠藤から説明申し上げます。

### 3 説 明

#### ○遠藤医療政策課長

それでは、資料1と資料2に基づきまして、御説明申し上げたいと思います。

資料1につきましては、9月に記者発表させていただいております「政策医療の課題解決に向けた県立病院等の今後の方向性」ということで、これまでの経過、おめくりいただきましたところに、カラーのポンチ絵のようなもので、政策医療の各分野の課題をまとめたものとなっております。

それに続きます資料の方で、詳しく内容について整理したものとなっております。その対応については、これまで御覧いただいている機会も多いと思いますので、以上で内容のところは割愛させていただきます。資料2を中心に御説明申し上げたいと思います。

資料2、両面コピーの資料でございます。こちらは、先ほど申し上げました9月の公表以降、地域の市町村、そしてまた、医療関係の皆様にご意見をいただく機会として開催しました会議での内容となっております。

上の方から、1番目からでございますが、仙台医療圏の市町村への皆様への御説明ということで、10月13日に開催した内容となっております。この中では、14市町村の担当の部局長様から御意見をいただく機会ございましたけれども、主な意見ということで、各市町村からいただいた御意見を載せてございます。

「地域の課題解決に繋がる」という御意見、そしてまた、「これまで長年の課題だった」というお話、また、「住民の方や自治体への説明について丁寧に」という御意見もいただいているところでございます。また、様々御意見をいただきました後に、後ほど御説明の内容となってまいります。書面にも御意見をいただいているところでございます。

2番目の周産期医療協議会でございますが、こちらは、県内の周産期医療の分野で、地域医療を担っていただいている先生方を参加メンバーとして開催しているものでございます。10月28日に開催したものでございます。裏面の方に続いてまいりますけれども、内容といたしましては、この資料1の内容を御説明申し上げたところですが、基本的には、この内容について御意見、特に異論、補足する御意見、質問はなく、内容については御了解をいただいたところでございます。

3番目、地域医療構想調整会議は仙台医療圏のエリアを対象に開催したものでございます。11月4日に開催いたしました。主な意見として出ておりますのは、ここに拾ったところでございますけれども、「今回の検討、議論が必要な背景について、県民の理解が十分ではないのではないか。そうした中で、将来の人口や病床など、県はこれまで以上に課題などを強く広報していく必要がある」という御意見、または、救急のお話になってきますと、「全体としての搬送時間が短縮できるように整備していくことが大切」というお話、または、「地域医療のバランスが崩れることのないように、各地域の医療を既存の病院との連携を図りながら調整していく」ということや、「病院の今回の取組がなかった場合のデメリット、どのような課題が出てくるかについても分かりやすく周知していく必要があるのではないか」との御指摘もいただいております。また、「全体としては少し分散することは必要と考えられるが、丁寧に進めることが大切」という御意見もいただいております。

4番目の救急医療協議会でございます。こちらは11月9日に開催いたしまして、県内の三次救急、二次救急の主だった病院の先生方をメンバーとしての会議でございますが、御意見といたしましては、「病院がなくなる地域が出てくる場合には、住民の方々に対して丁寧な説明が必要」との御意見をいただいたところでございます。以上でございます。

#### 4 意見交換

○司会（伊藤保健福祉部長）

それでは、次第の「4 意見交換」に入らせていただきます。ここからは進行を村井知事をお願いいたします。

○村井知事

それでは、ここからは私が進行してまいります。

はじめに、先月開催しました市町村説明会後に、各市町村から提出のありました御意見、皆さんにいただきましたけれども、これは資料3-1に取りまとめました。後で御覧いただければと思います。

それでは、早速、時間に限りがありますので、各市町村長の皆様から御意見を頂戴したいと思います。

せっかくの機会ですので、全ての首長に一言ずつ御意見を賜り、その後、また皆様から時間の限り、御意見をいただければと考えてございます。まず、仙台市さんから別に御意見をいただきましたので、最初に仙台市長さん口火を切っていただければと思います。よろしくお願いいたします。

○郡仙台市長

ありがとうございます。発言の機会をいただきました。ただいま御説明にございました県の方向性に対する仙台市の考えにつきましては、本日、お配りをいただいておりますA3のカラーの概要版にまとめているところでございます。この概要版とは別に本編となる冊子も作成いたしまして、県の方向性の根拠とされたデータに対する本市の率直な疑問ですとか、現場感覚と少し乖離しているなど感じられた点などについて、私どもの知りうる情報を基にまとめたところでございます。冊子につきましては、先刻、事務方から送付をさせていただきましたけれども、まだ、お手元に届いていない首長さんもいらっしゃるかと存じますので、ぜひ届き次第、ご一読いただければ幸いです。

概要版につきましては、裏面のローマ字のVのまとめのところがございますとおり、県民、市民の理解が得られるように、県には主体的にお取り組みいただきたいこと、また、開かれた議論を通して検討を進めていただきたいことなどをお願いしております。資料に記載しておりますので、内容の説明は割愛いたしまして、本日は、私から何点かお話をさせていただきますと存じます。

はじめに、これは非常に重要な点ですけれども、私のこの意見というのは、本市や仙台市民のことだけを考慮して提出したものではないということでございます。本市は、三次救急医療機関でございます仙台市立病院を所管し、また、今回再編の対象とされております2つの病院に対しまして、独自の財政支援を行うなど、仙台医療圏における一定の責務を果たしてきております。今回の県からのお話は、仙台医療圏における将来的、かつ広域的な観点で検討がなされているものと私といたしましても理解をしております。この点には同意をするものでございますけれども、適切なデータに基づく検討を経ているのか。また、仙台医療圏の将来のためにどう繋がるのか、説明が簡単ではございません。

特に、仙台医療圏における将来的な高齢者の人口分布ですとか、医療需要や緊急搬送需要の変動についての議論は検討に当たって、最も基本となる部分だと考えております。

宮城県全体の人口が今後大幅に減少するという見込みであることは十分承知しておりますけど、本市の高齢者人口について申し上げますと、2020年の27万人に対しまして、2045年には

35万人とピークを迎え、その後、10年後でも34万人と予測されておりまして、医療需要や救急搬送需要の増加が続くと見込んでいるところでございます。

もとより、宮城県地域医療構想においても、仙台医療圏の人口は2040年には現在よりも10万人以上減少する一方で、高齢者人口は逆に10万人弱増えるの見込まれており、医療需要はむしろ大きく増大するということが、明確に議論されてまいりました。こういった既存の議論の積み重ねと今回の県の方向性との関係性も県民、市民の皆様の理解を得るためには、説明が必要になるものと考えているところでございます。

また、県民の命を守るために大変重要な救急医療につきまして、県の方向性では、現場滞在時間について、仙台医療圏の中でも仙台市以外では県の平均を上回り、改善が必要であること、そして、新しい病院を整備することで、仙台市以外の地域の救急搬送時間を短縮する。貢献をするとされているところでございます。

しかしながら、現場滞在時間は、受入病院の選定や移動に必要な時間に加えまして、傷病者の状態観察や救急救命士による応急措置を行う時間などが含まれているものでございまして、病院選定に要する時間は、全体のうちのごく一部に過ぎません。この間の滞在時間を基準とした救急搬送時間の長さについての議論は、救急の実務に当たる消防職員の認識とはだいぶ異なっております。

加えまして、心肺停止の患者のような一刻一秒を争う案件につきましては、日赤や労災のような二次救急医療機関では受け入れが困難な場合も多くございますことから、仮に移転した場合にも医療圏として大きな変化はないと考えられます。

以上、私どもの考えを申し上げましたけれども、今回取り上げられている4つの病院というのは、それぞれに施設の老朽化でありますとか経営的な御事情など、様々な課題を抱えておられることは私も理解しております。

この4病院の再編は、本市に所在する病院が市外に出ていくことで、本市の医療提供体制に影響を及ぼすことはもちろんなのですが、移転する場所や新しい病院の機能、そして、受診のしやすさという観点から交通アクセスの問題など、仙台医療圏全体に与える影響につきましても、しっかりと議論をする必要があるものと考えております。この点もぜひ御参加の首長さん達に御認識をいただき、御理解を賜りたいと思います。

そうした面も含めまして、今回の再編の方向性というのが、仙台市を含む医療圏全体の将来にとって望ましいものであるのか、域外、圏域の住民の皆様方の医療サービス水準の維持向上に繋がるものであるのか、データを丁寧に分析していただき、様々な角度からしっかりとした検討評価がなされる必要があるものと考えているところでございます。

私といたしましては、今回の問題は、それらのことがオープンに議論されて、県民の皆さん、市民の皆様方の納得のもとで、進められていくことが最も大切であると、このように考えているところでございます。私からは以上でございます。よろしく申し上げます。

#### ○村井知事

どうもありがとうございました。今いただいた御意見もしっかり受け止めまして、我々としても県の考え方というのを仙台市さんにお示しをする必要があるだろうと思っております。今、詳細を分析しているところでございます。

今日は時間もありませんので、この場で県の考え方をお伝えすることは控えますけれども、まもなく県議会が開会されますので、その県議会の議論なども聞きながら、仙台市さんにしっかりと県の考え方というものをお示ししたいと思っておりますので、少しお時間をいただければと思っております。今日いただいた御意見はしっかりとまず受け止めさせていただきたいと思っております。

○若生富谷市長

まずは、村井知事におかれましては、今週からいよいよ5期目スタートおめでとうございます。引き続き、御活躍、そして引き続き、御指導、御支援賜りますようよろしくお願いいたします。

今回の示されました県立病院等の今後の方向性につきましては、まさに、宮城県全体の今後の医療体制のあり方を慎重に検討された結果として、示された内容につきましては、全面的に賛同させていただいているところでございます。

特に、今回、本市におきましては、これまで長年の課題でございました富谷、黒川地域におきましては、人が増え、企業が増え、ましてや黒川地域は、北部工業団地や大和リサーチパークと、本当に大きな企業の立地が続いておりまして、人が増え、企業が増える中で、急性期、救急を担う総合病院がないということで、大変長年の課題でございました。そして、住民の皆さんからも大変要望の強かったことでございましたので、昨年、再編に向けて3病院の連携・統合に向けての発表があったときに、真っ先に、もし移転が伴うのであれば、ぜひ本市へということで、手を挙げさせていただいたところでございました。

それから、この1年間、本当に今回は日本赤十字社、独立行政法人労働者健康安全機構、そして宮城県立病院機構、そして東北大学、そして宮城県の5者の皆さんが揃って1年かけて本当にいろんな意味でいろんな角度で検討した結果として、今回お示しされた仙台医療圏の中の北部と南部、具体的に知事が選挙の中では名取市と富谷市というところまで明言をさせていただいたところでございますが、そういう意味では大変私どもにとって、そして宮城県全体のこれからの医療体制のあり方にとって、私は大変素晴らしい方向性を示していただいたと思いますので、しっかりとこの方向でお進めいただきますことを改めて強く要望するところでございます。

本市におきましては、もし、このままこの方向性で立地をしていただければ、用地の確保、そしてまた、先ほど郡市長が申し上げてまいりました仙台市さんが財政支援行ったというお話がありましたけれども、本市におきましても運営、財政支援をしっかりと行っていきたいと思っておりますので、どうぞ、よろしくお願いいたします。

○田中大郷町長

私よりももっと重要な立場にいる市町村長もいるはずなのですが、今日、仙台市長さんと富谷市長さんと小さな大郷町の町長3人だけで、もったいない会議だなと思っておりますが、そういう中で申し上げさせていただきますが、ちょっと視点を変えて、この再編に対して考えがありますが、仙台都市圏広域行政推進協議会の会長を務めている仙台市の郡市長さんであります。我々、その仙台都市圏の北部ブロックの一員であります。今回、このような本県にとっては、かつてなかった新しい歴史を作ろうとしている。まさに、これこそが、今、叫ばれている気候変動なり、人口減少、大きく言えば、地方創生の新たな取組に村井知事は取り組んでいるということ、まず、理解するものであります。

そういう中で、今回、仙台都市圏広域行政推進協議会の14名の市町村の南ブロック、東ブロック、中央ブロック、北ブロックこの4ブロックを宮城県の中心と位置付けた場合には、今回、見直しをする名取と北ブロックの富谷、この再編こそが、宮城県全体の全ての宮城の文化も経済も仙台中心に取り巻く市町村、宮城県を抱えるだけの私たちのパワーがあると思っております。

そういうことからしますと、今回の再編はまさに時代を先取りした新しい発想で村井県政がスタートしたということに我々大変将来に期待を持ってこのまま続けていただきたいと、ぶれることなくこの事業を成し遂げて、次の段階、富県宮城の問題についてもこれを基軸にした新しい時代

に私は仙台市が新たな文化を創造していただきたい。そのためには、仙台都市圏みんなで仙台を応援する。仙台市長さんがいろいろ御心配されることにつきましては、私も分からないわけではございませんが、もうすでに、仙台は政令指定都市に指定されて30年も過ぎている。こういうことで、私は新たな仙台圏がスタートすべきだと思いますので、全面的にこの事業に対して仙台市が宮城を背負って立つくらいの私はパワーを持っている。そのために我々仙台都市圏ががんばっていくということですので、大変、郡市長には御苦勞をおかけしますが、我々すべてが仙台市に関わっていることを御理解していただきたいと思います。以上を持ちまして、私の意見とさせていただきます。

#### ○熊谷利府町長

本日の会議開催、誠にありがとうございます。利府町長として、今回、村井知事が掲げた病院の再編は賛成でございます。

資料として提出させていただきましたが、資料プラス4つ賛成の理由があります。一つは、災害の多い時代でありますので、災害拠点病院が分散化されることは、大賛成でございます。2点目、人口動態に合ったこの再編案だと思っております。これは、先ほど富谷市長がおっしゃったとおりだと思います。3点目は、再編によって、仙台にいと競争が激しくて病院がもしかしたら先行きが危なくなってしまうことに対して、再編をしますと、スケールメリットが得られて病院が生き残っていけるというメリットがあると思います。最後の4点目は、村井知事からもございました、今回知事選挙で富谷市さんと名取市さんということをはっきりと選挙公約に掲げて民意を受けて再選されたと思っております。それが私は全てだと思います。以上、賛成の立場でお話をさせていただきました。

#### ○山田名取市長

今日、そちらに伺えなくて申し訳ないのですが、リモートですが、今回、知事が出された県の方針について、名取市も賛成、大賛成ということで発言させていただきます。

本日の資料に今後の方向性として、仙台赤十字病院と県立がんセンターを統合し、新たな拠点病院を整備することについて協議を開始し、診療内容を含む、病院の規模などについて、来年度中の基本合意を目指すことと示されております。また、10月に知事より県立がんセンターと仙台赤十字病院の統合による新病院は名取市に配置することが望ましいと表明いただいたことは、本市がかねてより要望してまいりましたががんセンター機能の存置に加え、仙台赤十字病院が担う産科機能の引継ぎ、さらには救急医療など医療機能の拡充に繋がる形でありまして、その新たな病院が名取市に整備されることにつきましては、大いに歓迎したいというところでございます。

一方、本市にあります精神医療センターについては、築39年と老朽化していることから早期の建て替えの方向性については理解するものであり、加えて、東北労災病院と合築し、一般病院との連携強化及び精神科救急体制の強化が図られるという県の方針についても理解するものでございます。

新病院の目指すべき姿、枠組みの中で示されました仙台市内の病院に搬送を依存する仙台医療圏の仙台以外の地域の搬送時間の短縮、また全県を視野に入れた持続可能な周産期医療体制の確保ということは、まさに、名取市を含む県南部地域が抱える問題点そのものでありまして、これらの機能を有する新病院を名取市に誘致をすることは、名取市を含む県南部地域の住民の方の大きな願いであり、希望であると捉えております。今後、日本赤十字社、労働者健康安全機構と協議を開始するとのことでしたが、本市としては、これまでどおりがんセンター機能の存置、連携・統合

する新医療施設の名取市内への誘致について、引き続き、強く要望してまいりたいと考えております。名取市からは以上です。

○齋藤山元町長

この病院再編問題に対する本町の基本的な認識でございますが、本日の会議の出席範囲は、御覧のように仙台医療圏を構成する仙台都市圏関係市町村となっておりますが、今回の病院再編問題、仙台赤十字病院とがんセンターを統合して、新たな拠点病院を名取市に整備することに関しましては、宮城県南サミットを構成する県南4市9町の総意であるということ。そして、県南はとりわけ周産期医療が大きな課題となっております、長期の再建、再編実現を大いに期待しております。

その上で、個別具体的な関係を2点ほど要望したいと思っておりますが、1点目は、東北労災病院と県立精神医療センターの合築については、身体合併症のある方に対する対応や通年夜間の精神科救急対応など課題解決に向けた取組みに大変期待の持てるところでありますが、将来的に、仙台をまたいで富谷市に移転となれば、現在、本町からも60人弱の方が精神医療センターに通院しているところであり、移転となった場合、通院の困難な方が発生することが予想されます。この内容については、本町に限ったことではないと考えられますので、移転の際、交通の利便性の確保、また地域の精神科クリニックとの連携体制を構築し、受診者の継続的な治療に向けた配慮をお願いしたいということ。

2点目は、仙台医療圏管内でも南部に位置する本町ほか、仙南地域の自治体では周産期医療の課題は深刻であります。今般、名取市への病院整備のほか、地域の周産期医療体制の確保についても視野にこの内容は非常に期待が持てる内容であります。しかしながら郡部においては、産後デイサービスやショートステイの受入先を確保できない状況にあります。対象となる妊婦の問い合わせに対応できていないのが現状であります。法においては、全ての市町村に対して、産後ケア事業の実施について、努力義務とはなっているものの、現状を踏まえ、検討に当たっては、周産期医療体制に特化したものではなく、産後デイサービスなど産後ケアの受入も視野に検討をぜひお願いしたいと思っております。以上でございます。

○佐藤塩竈市長

私ども塩竈市立病院を抱えております。メリット・デメリットが当然ございます。今、御意見を伺っていて、名取市さん、富谷市さん、仙台市さんのお話を伺いました。それぞれが当然のごとく病院があるものが移転したり、なくなったりということで、当然、問題が多く発生するだろうと、それぞれの皆さんがおっしゃっていらっしゃった。そのことをどう受け止めるのかが重要だろうと感じています。

その全体のバランスを考えた上で村井知事が選挙の時に公約を発表された。それに沿って、郡市長さんが様々な御意見をされた。これは至極当然と思っております。それを埋めていくのが事務方の責任じゃないかなと、今、聞いておりましたので、私どもも自分達の病院がもしなかったらどうなんだという視点をしっかり考えないといけないだろうと。そういう視点で物事を考えると、それぞれの意見について、なかなか判断することは難しいのだろうと思っておりますが、そこをぜひ埋めていただきたいと思っております。以上です。

○菊地岩沼市長

私からは、今、具体的な地域の課題についてお話をさせていただきます。

一つは、皆さんそれぞれおっしゃっているように、周産期医療について、岩沼には周産期医療と

して病院があるわけですが、そこに集中している現状があるということ、まずお伝えしたいと思います。加えて、様々な出産に対する支援を求めていかなければならないと思っております。今、日赤と連携を取りながらやっておりますが、これをさらに充実させないと少子化対策にもならないですし、人口増対策にもならないので、ここをしっかりとカバーしてもらいたいと思います。

二つ目は、救急医療でございます。これも岩沼で二次救急をやっておりますが、市民、あるいは急患には症状の重さもあるので、二次から三次それぞれが連携をとって、時間差をなくすように受け入れをしていただかないと、ここ仙南だけでもカバーしきれないということもありますので、宮城県には県南全体を考えてバランスを考えていただきたいし、救急あるいは周産期について計画をしっかりと盛り込んでいただきたいと思っております。基本的には、現在の県の計画の方向性については、賛成でございます。以上です。

#### ○櫻井松島町長

今回、少子高齢化の進行によって、2025年には超高齢化社会を迎えるということでの検討かなと考えておりました。今後宮城県の政策医療のあり方につきましては、県からの資料においては、東北大学の協力を得ながら、日本赤十字社等の5者協議を進めてきた経緯をもった内容を記されております。私からは2点についてお願いしたい。

まず一つは、宮城県として、10年先の県全体の人口バランス等も考えたまちづくりを進めていくことが、各市町村との連携の中で、強く求められてきていると思っておりますので、まず、それが1点。

それから、再編に当たっては、移転先等の周辺地域医療提供体制との連携、また、交通アクセス等も含め、医療を受ける側から等の問題点を整理し、課題解決の観点から地域医療の今後のあり方について、議論を深めていっていただきたいと思っております。

名取、富谷が手を挙げていることにつきましては、賛同していきたいと思っております。以上です。

#### ○深谷多賀城市長

村井知事はじめ、皆さん大変お疲れ様でございます。

今回の政策医療の課題解決に向けた県立病院の今後の方向性については、異論はございませんので、進めていただきたいと思うのと同時に、仙台医療圏の住民の皆さんが医療を受ける機会を制限されることがないように十分配慮しながら進めるべきと思っておりました。

昨日の新聞の中でも、知事が仙台医療圏の皆さん、それから病院関係者の意見を聞いて丁寧に進めたいということであったので、その姿勢で臨んでいただければありがたいと思っております。

ちょっと前の新聞で、仙台赤十字病院の院長先生の舟山さんの記事があつて、現場の声だと思つたのですが、やっぱり、仙台市内には病院が集まって、競争が激しくて、病院の経営が段々苦しくなっているということで、具体的に2014年に仙台市立病院が太白区に移って患者が減ったとか、経営を維持していくのは大きな病院でも大変な時代だということを改めて感じたのと同時に、病院がなくなる可能性すら否定できないという内容でありました。

やはり再編することでスケールメリットを作ることでスタッフを増やし、当直も増やして救急を受け入れやすくするという意味も言葉としてあつたので、現場で働いている方々、お医者さん方の意見をしっかりと汲み取りながら今回の再編を進めて仙台圏域の医療の充実を図っていければと思います。

最後に、この記事の中でもあるのですが、今は政治主導で進んでいるというところを書いてあつて、住民を含めた議論を深めてもらえればとあるのですが、どこかで政治が一旦主導した上で、住民の方々の意見の合意形成を図っていくという、これを両立しなければならないと思つているの

で、知事の力強いリーダーシップのもとで、地域医療の充実と医療を求める方々に不備がないよう努力をしていただければと思いますので、よろしくをお願いします。

#### ○山田亘理町長

本日はこのような会議を用意していただき誠にありがとうございます。

亘理町としましては、亘理町には公立も私立も病院がございません。本当に緊急事態が、救急が起こった場合は、全部お隣の山元町や岩沼市をお願いしているところが実状でございます。

そういう意味で、深谷市長からお話がありましたが、今度、日赤が今まで以上に救急に力を入れていただけるということであれば、本当に名取市にがんセンターと仙台赤十字病院と一緒に病院を建てるということになると、大いに期待をしているところでございます。

また、先ほどからお話が出ている周産期の医療につきましても、産婦人科がない亘理町におきましては、やはり岩沼市に病院がありますが、もう一つ日赤がいるということで大変嬉しく思っているところでございますし、また、4市9町で構成します会長が岩沼市長でございますが、県南サミットにおきましても、今回の仙台赤十字病院そしてがんセンターの統合に関しましては、皆さんで応援していきたいということで決議をしておりますので、それも含めまして、仙南4市9町、約32万人の人口がありますが、その辺も含めて、ぜひ、これを遂行していただきたいと思っております。以上でございます。

#### ○寺澤七ヶ浜町長

再編についての異論はございません。ただ、本町でも一部、東北労災病院とか県立がんセンターを利用する町民もおりますことから、遠隔地になりますと、交通アクセスを利用することが出来なくなる懸念もありますけど、知事の示す方向性については、御異議はございません。以上でございます。

#### ○浅野大和町長

大和町としましては、方向性につきましては賛成をさせていただきたいと思っております。富谷、黒川エリアということでありますので、賛同するところではございますけれども、理由としましては、仙台医療圏内の災害拠点病院の空白地に黒川地区はなっております。この解消がされるということがひとつです。

また、富谷市さんに移転となれば、当然ですが、救急搬送時間が短縮されることが大いに期待されます。黒川地区では公立黒川病院がその役割を担っているところではございますけど、進出することによりまして、二次、三次医療機関の地域医療体制の構築がしっかりとなされると思っておりますので、大和町といたしましては、黒川エリアとしてのことを考えた場合に賛同いたします。

立場がそれぞれございますので、御理解をいただいた中での進め方をよろしくお願ひしたいと思っております。以上です。

#### ○萩原大衡村長

知事、当選おめでとうございます。知事の公約がこのテーマになっているわけですので、あえて今申し上げます。

仙台医療圏、また、仙台行政圏の最北端の大衡村にとって、この示されたプランに反対する理由は全く見つかりません。大衡村の現状等々を申し上げて、御意見とさせていただきたいと思っております。黒川郡内では急性期や救急医療を担う医療機関が黒川病院に限られております。仙台市内の医療

機関に搬送されるケースが多々ございます。医療資源が都市部に集中することで、搬送時間が長くなり適切な医療に繋ぐまでに時間を要している実態がございます。近隣自治体に新病院が建設されることで、搬送時間が短縮されることを切に期待するところでございます。

それから、医療機関の偏在についてですが、近くの総合病院では、常勤の専門医の数が限られており、希少疾患の治療や診療科の医師がいない場合は、仙台市内の医療機関を受診するケースが見られます。車で30分以上かかる通院は、特に、高齢者にとって身体的、経済的に大きな負担を強いることとなりますことから、新病院が建設されることは、アクセス、利便性の課題解決に適うと思います。最後に、この新病院の建設の場所でございますが、聞くところによりますと富谷市の東部というように聞き及んでいるところですが、この件について、少しどうなのかなど。交通アクセスがどうなのかなど、私は懸念しているところでありまして、できれば、国道4号と大衡仙台線の間位に立地できれば素晴らしい病院になるのではないかと考えております。余談であります。そういったことで、大衡村としては、反対する理由は全くありませんので、賛成と申し上げたいとこのように思っております。以上で終わります。

#### ○村井知事

ありがとうございました。この会議は、まずキックオフの会議でありまして、これから具体的な話をしていきますので、萩原さん、まだ場所も何も決まっておられませんので、噂話はいろいろ広がっているかもしれませんが、一切、何も決まっておられませんので、御理解いただきたいと思っております。

まだ、時間がありますけれども、仙台市長、何かございますか。追加でよろしいでしょうか。その後、仙台市長の後に皆さん追加でお話したい方は挙手をお願いしたいと思います。

#### ○郡仙台市長

再び振っていただきありがたく思います。各首長さん達の御意見というのはごもつともだと思っております。これまで大変厳しい中で、住民の皆様様の命と健康を守るためにどうあるべきなのかということや、常日頃からいろいろお考えいただいた上で、今回のお話ですから、それこそ、病院が来るということになれば、これまでのことが解決に向かうということは、そのとおりであろうと思うところです。今、大まかに進んでおります人口減少のお話もありましたけれども、私が申し上げたいのは、もちろん本市から所在する病院が市外に出ていくことについての本市の医療提供体制に及ぼす影響というのは大きいということがもちろんあるのですが、人口減少の大味なところではなくて、ぜひ、今回の方向性の具体のところが見えてまいりませんと、なかなか、例えば、二つの病院が一緒になってどういう診療科を持つのか、あるいは、病床数はどのくらいになるのか、あるいは、合築と言われる精神医療センターについても、今通っておられる方々がどういうふう北部に集約されるのかを含めて、様々な議論があろうかと思っております。

先ほどお話をさせていただきましたけれども、仙台医療圏における将来的な高齢者の人口分布、そしてまた、救急搬送需要の変動について、やはり、メリット、デメリットをしっかりと詳細について検討していただきたいということ、そして、このことが、仙台医療圏全体のメリット、利益に繋がる、市民の皆様、住民の皆様方の医療提供体制が確たるものになることでしょうかから、その点について、ぜひ、県としても持ちうる情報を開示していただいて、十分な理解が得られるように、納得が得られるように、お進めいただければと思います。

○村井知事

しっかりと今の御発言を受け止めたいと思います。私も先日仙台市さんから11月15日に出されました仙台市さんの考え方というのを読ませていただきました。なるほどと思って読ませていただきましたけれども、一方で、県としての考え方、主張というのもございますので、それについては、今日この場ではなくて、改めてうちの担当から仙台市の担当の方にお渡しをしたいと思えます。その前に、議会があるので、おそらく仙台市さんが出されたものをベースにいろいろ質問もあろうかと思えますので、そういったものに対してしっかりと県としての考え方を伝えながら取りまとめが終わりましたならば、仙台市さんにしっかりと御説明に伺いたいと思っております。

○郡仙台市長

市としての立場を申し上げましたけれど、これは、医療の提供を受ける住民の皆様方の御理解と納得が必要だろうと思えます。そこを丁寧にさせていただかないと、なかなか難しいということは改めて申し上げたいと思えます。

○村井知事

先ほど市長がおっしゃったように、ある程度、骨格が明らかにならないと説明のしようもないということもありますので、まず、骨格を形作って、ある程度の方向性が出たら、具体的にまたお話をさせていただければと思えます。

これで終わりではありませんので、また、何回かこの会議を持ちたいと思っておりますので、これは、あくまでもキックオフの会議ということで、先ほど、賛成だとか反対だとかいろいろ御意見ありましたけれども、今日この場では、賛成、反対を決める場ではありませんので、皆さんからの率直な意見を聞く場だということでありまして、今後、どのように収斂していくというのは、全く未定ですので、結論ありきでは決してないということをお理解いただきたいと思います。

今日は、いろいろ1時間近く皆様から貴重な御意見を賜りましてありがとうございました。なるほど、こういう視点もあるんだと大変勉強になりまして、こういったことをベースにまたよく考えながら話を進めてまいりたいと思えます。

私といたしましては、新たな2病院の具体的な姿について、仙台市長からもお話があったように、お示しをしなければならぬと思っておりますので、仙台赤十字病院と東北労災病院の各設置主体と基本合意に向けた協議を来月から始めたいと思えます。その上で、また、協議の内容、検討の状況など、できる限り情報提供しまして、皆様とこういった会議を定期的に関いた上で、御意見を、肉付けをしていきたいと考えておりますので、御協力のほどどうかよろしくお願い申し上げます。

オンラインでの参加の首長さん方どうもありがとうございました。それでは、進行を司会にお返ししたいと思います。

## 5 閉 会

○司会（伊藤保健福祉部長）

皆様、大変ありがとうございました。以上をもちまして、本日の会議を終了といたします。どうも、ありがとうございました。